

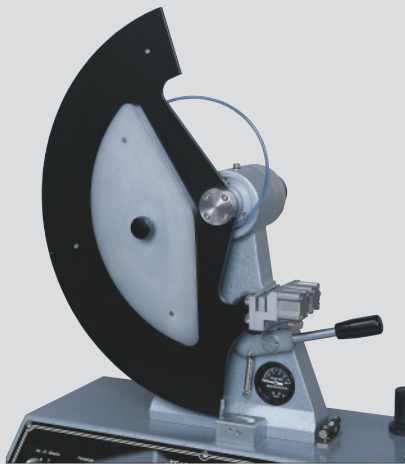
エルメンドルフ引裂度試験機（デジタル表示式）

本機は紙の引き裂きに対する抵抗性を測定するものであり、新聞用紙などの印刷用紙や紙袋用紙、包装用紙など使用中引裂応力を受ける紙の評価に使用されます。引き裂き強さは紙層から繊維を引抜く仕事と繊維を切断する仕事が含まれており、一般に繊維長が長い程強く、叩解が進み繊維間結合面積が増し最適面積が過ぎると、引張・破裂強さの傾向とは逆に強度は低下します。

本機は、紙、板紙、繊維、プラスチックフィルム等様々な試料を、付加重錘（オプション）をつけることにより、広範囲に測定できます。空圧式試料クランプにより操作性が優れ、測定値は16枚当りに計算されて表示されます。



No. 2033



加重式

- 振子容量：標準型(試料1枚当たりの強さが0~1000mN)
重荷重型(試料1枚当たりの強さが0~2000mN)
付加重錘(オプション)の容量を容量設定スイッチで切替えることが可能
- 精度：±1%
- 試料クランプ：押しボタン操作によるエアークランプ方式
- 試料枚数：試料を何枚重ねて引き裂くか、その数を設定
設定可能な枚数は1、2、3、4、5、6、7、8、
10、12、14、16 (枚)
- 坪量の入力：坪量を入力すれば比引裂値を表示
- エラー警告：引裂値が20~80%の範囲に入らない場合にエラー表示
- 振子摩擦表示：振子の回転摩擦が許容範囲内にあるかどうかを表示
- “0”点自動補正：振子を素振りさせ“0”補正スイッチを押すと、自動的に補正
- データ表示：引裂値、比引裂値を切替えスイッチで表示
- 単位切替：SI単位とg単位が切替表示可能
- データ出力：RS-232C方式
- 参考規格：JIS P-8116-2000、TAPPI T414om-98、
ISO1974
- 電源：100/110V 50/60Hz 1A
- エア源：0.5~0.7MPa
- 外形寸法：480×370×615mm
- 重量：18kg

No. 2035

エルメンドルフ引裂度試験機

引裂度とは紙を両手の指先にて持ち、これを互に反対の方向に引き裂くときの抵抗する強さを表します。扇型振子を一定の高さより振り下して試料を引き裂き、その時のエネルギーの損失量を目盛板により読み取り、引裂度とします。試料の強さにより枚数を1枚から16枚にて測定し、基本枚数16枚に換算して引裂度の数値と致します。

- 試料寸法：縦 63mm 横 50~75mm
- 試料枚数：基本枚数 16枚（目盛の20~80%の範囲に入る枚数で測定する）
- 試験引裂長：43mm
- 試験切込長：20mm
- 参考規格：JIS P-8116-2000、TAPPI T414om-98、ISO 1974
- 外形寸法：500×240×360mm
- 重量：15kg



No. 2035

No. 2036

荷重引裂度試験機

本機はNo.2035で測定できない段ボール原紙、ルーフィング、織布等の引裂度を試験するもので、振子の中心に付加重錘を取付け、振動エネルギーを倍加しています。操作は同様に、試料を引き裂き、振子上の目盛板にて読み取ります。

- 容量：0~1000、0~2000（試料16枚の時の1枚当たりの目盛）
- 参考規格：JIS P-8116-2000、TAPPI T414om-98、ISO 1974
- 外形寸法：500×240×360mm
- 重量：17kg



No. 2036

No. 2037

KRK型軽荷重引裂度試験機

本機は従来一般に使用されている引裂度試験機では測定し難い薄葉紙、合成紙、セロファン等を測定出来るもので、弊社独自の技術で開発したものであります。その基本とする原理構造は標準型（JIS規格）と同様です。無負荷での振子の回転速度は標準型とほぼ同様の速度を可能にしています。最大引裂エネルギーは標準型の1/3又は1/4（選択可）。

チャックの位置（回転軸心を通る垂直線より 27.5° 及び回転半径104mm）は標準型と同一で、試料サイズ、試料を挟む深さや切込深さも標準型と同一にしています。

- 振子容量：0~300mN
- 引裂エネルギー：標準型の1/3又は1/4
- オプション：標準型の1/16軽荷重型もあります
- 外形寸法：300×200×370mm
- 重量：6.5kg



1/3軽荷重型

No. 2037



1/16軽荷重型